

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	小泉 登	所 属	U12 カテゴリー
大会名	令和 5 年度 第 53 回関東中学校バスケットボール大会		
期 間	2023 年 8 月 7 日 ～ 9 日（参加日：8 月 7 日 8 日）		
会 場	日環アリーナ栃木		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
8 月 3 日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
8 月 7 日	男子・女子 1 回戦	日環アリーナ栃木	
8 月 8 日	男女 2 回戦・準々決勝	日環アリーナ栃木	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>指名審判員の茂泉氏・東條氏・古畑氏の 3 名から『S 級審判員になるために取り組んだこと』というテーマでお話を頂いた。</p> <p>●茂泉 圭治 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験を積むことが大事であり、その為には仕事や家庭の調整をおこなう必要がある。 ・単に割当をこなすだけで無く、毎回目的を持って取り組む。また割当が無かったとしても会場に足を運び、色々な方とコミュニケーションをとる。他の方から学んだことが自分自身の引き出しとなり、必要な時に学んだことを引き出せるようになってくる。（動かせる引き出しを作る） ・メンタルが弱い理由はバスケ技術を知らないから。ルールをしっかりと理解することや、技術を知り深めることは非常に大事。それによる裏付けがあるから判定をすることができるようになる。判定の裏付けや根拠をもつための知識をつければ、メンタルを強く保てる。 ・『やってみる』と『振り返る』 スクラップ&ビルドではなく、やってみたことを振り返り、現状で修正すべき点を修正していく。出来ていることまで無くさない。あれこれより、1 つずつチャレンジしてしっかりと振り返る。 <p>●東條 輝正 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャンスを掴む 様々な経験を積むことが非常に大事。 ・ステップアップするために まずはコートに立つ機会を増やさなくてはいけないし、立つためには都合をつけなければいけない。都合をつけることが第一歩。 ・客観的にゲームを見る。主観的になりすぎず、一步引いて見ることも大事。 ・正しい判定のためには、メカニクスを正しく理解する。 <p>●古畑 咲 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マインドセット <p>カラーバス効果といった方法を活用する。なりたい自分の位置付けを紙に書き、毎日見ることで自分の意識づけになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最高の体験 <p>BLG チャレンジを経験したことで、立ち位置を再確認することができた。女性 3 人が男性の試合に審判として普通に行きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これから <p>これからは多くの方に還元をしていく。一緒に挑戦する仲間であり家族である方々に、効果的なフィードバックをしていきたい。現場に立つ方々が安心して審判ができるように、自分自身の立場から環境を作っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足跡を残していく <p>思いは引き継がれるものでいつか実現する。まずは目の前のことから変えていきたい。そういった意識をもって取り組んでいく。</p>			

担当試合①	
期 日	8月7日(月) 男子1回戦
対戦カード	赤塚中学校(茨城) vs 一条中学校(栃木)
ク ル -	CC: 関谷 洋平 氏(東京) U1: 小泉 登(埼玉) U2: 小野里 健太 氏(群馬)
ミーティング内容	審判主任: 渡邊 論 氏(栃木)
<p>▶ゲーム前のPGC 基本的なメカニクスの確認・チーム情報の共有・TOとのミーティング</p> <p>▶ゲーム後のミーティング (赤塚) 50点対99点(一条)</p> <p>●全体として 大きなトラブル無く3人でスムーズにゲームを進めることが出来た。 ただし点差がついた中で1試合通して振り返ると、前半の早い時間帯に赤塚のセンターに対する守り方に笛を入れるべきだった。現象としては大きなコンタクトではなく、RSBQの崩れも小さいプレイであった。自分の判定としてはセンタープレイヤーの技術不足としてコールしなかったが、ディフェンスはイリーガルなコンタクトをしていた。小さいコンタクトだとしても笛をいれることで、もう少し赤塚が点を入れることができる展開になったかもしれない。</p> <p>●メカニクスについて</p> <p>①コフィンコーナーに追い詰められたケースに、3人がどれだけ共通認識をもって対応できるか。 自分がトレイルの際に、センターエントリーがありコフィンコーナーに赤塚が追い詰められるケースがあった。バックパスが気になってフロントコートに入るのが遅くなったが、追い詰められるケースを想定して、早くセンターに入ったほうが、オリジナルセンターがトレイルに上がることで楽にプレイを判定することができた。</p> <p>②交代をさせるレフリー ローテーションがうまくいかず、ファウルを取り上げたレフリーがオポジットに行き、オポジットから交代請求をおこなうケースがあった。他の2人が気づき、交代請求に対応するべきであった。</p> <p>●自分への指摘事項 より良いポジションを目指して、ポジションアジャストを意識してほしい。あと1歩か半歩ずれることで、もっとクリアにプレイを見ることができる。</p>	
担当試合②	
期 日	8月8日(火) 女子2回戦
対戦カード	明見中学校(山梨) vs 昭和学院(千葉)
ク ル -	CC: 飯田 はるか 氏(神奈川) U1: 関谷 洋平 氏(東京) U2: 小泉 登(埼玉)
ミーティング内容	審判主任: 古畑 咲 氏(東京)
<p>▶ゲーム前のPGC 基本的なメカニクスの確認・チーム情報の共有・TOとのミーティング</p> <p>▶ゲーム後のミーティング (明見) 32点対66点(昭和学院)</p> <p>●全体として 大きなトラブル無く3人でスムーズにゲームを進めることが出来た。</p> <p>●自分への指摘事項 Good point 前日に指摘されたポジションアジャストに関して意識していると感じた。 Challenge point もっと早くプレイを捕まえて良い位置に動くことを意識してほしい。</p>	

それにより正しくプレイを判定でき、POC を的確に捉えることができる。カテゴリーが変わると選手が POC に対してシビアになってくる。審判として正しい判定をするために、より良い位置で判定する事にチャレンジして欲しい。

全体の感想

この度は関東中学に派遣して頂き感謝申し上げます。関東でトップレベルの中学生が集まる大会に 2 日間参加させて頂きました。2 試合を担当させて頂き、トップリーグで活躍されている S 級の方から、コメントを頂けるという貴重な経験をさせて頂きました。あまり担当することのないカテゴリーや、初めてお会いする方々とクルーを組むということで、普段から基本的なことを徹底することが、どれだけ大切さかを痛感しました。また担当した試合を通じて、より良い位置で判定をする為の 3PO における細かい動きや、3 人での協力の大切さ改めて感じる事ができました。初日に頂いた講評を翌日のゲームですぐに意識できたことが、自分自身としては良かったと思っております。

今大会で学んだことを、自分のカテゴリーにしっかりと伝達していきたいと思えます。

今回の派遣にあたり、大変お世話になった栃木県バスケットボール協会の皆様、また今大会へ派遣してくださいました埼玉県バスケットボール協会審判部の皆様、日頃活動でご指導して下さる皆様に心より感謝申し上げます。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

県外派遣報告書

審判員名	若林 哲	所属	U15
大会名	令和5年度 第53回関東中学校バスケットボール大会		
期間	2023年8月7日～9日		
会場	日環アリーナ栃木		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
8月3日	審判会議、レクチャー	オンライン形式	
8月7日	男女1回戦	日環アリーナ栃木	
8月8日	男女2回戦・準々決勝	日環アリーナ栃木	
8月9日	男女準決勝・決勝	日環アリーナ栃木	
会議 講義 内容			
<p>指名審判員の茂泉氏、東條氏、古畑氏の3名より「S級審判員になるために取り組んだこと」というテーマでレクチャーを頂いた。概要は以下の通り。</p> <p>○茂泉氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験を積むために、職場や家庭の調整が重要。 ・割当をもらうだけでなく、「課題」や「目的意識」を持って取り組むことが必要。そして「振り返り」まで行う。 ・上位ライセンス保有者から話を聞くだけでなく、聞いたことをゲームで活用することが大切。 ・「メンタルが弱い」という理由では何も解決しない。「知識を深める」→「自信を深める」→「いい判定」という流れを大切にする。 <p>○東條氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな大会やイベントをチャンスとして捉え、チャンスを掴むことが重要。 ・ステップアップのためには、都合の提出が大前提。また自分のカテゴリーより上の試合をどれだけ吹けるかにこだわる。 ・できる限り試合を観に行くこと。ゲームや会場の雰囲気を感じて、判定の引き出しを増やす。「自分だったら」という視点を常に持つこと。 ・映像検証では「正しいメカニクス」と「正しい判定」にこだわる。映像からのインプット、オンザコートでのアウトプットを大切にする。 ・マンツーマンペナルティについての説明。 <p>○古畑氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある出来事をきっかけに自分の気持ちに気づく。古畑氏の場合、コロナ禍でバスケットボールが止まったことをきっかけに「審判をしたい」という気持ちに気づいた。 ・カラーバス効果について。ある1つのことを意識することで、それに関する情報が無意識に自分の手元に集まってくる。 ・最高の経験を通して、なりたい自分を疑似体験する。古畑氏の場合は、WJBLプレーオフを現地観戦することでオンザコートに立つ自分の姿をイメージした。またBLGチャレンジを経て、当たり前でないことを当たり前にしたという気持ちが芽生えた(この場合は、女性が男子ゲームを担当することを当たり前にした)。) ・S級ライセンスを保有することで、「周りへ還元していくこと」や「足跡を残していく」ことが重要だと考えている。 			

実技

担当試合	期 日	8月8日	男子 女子	準々決勝
	対戦カード	豊田(神奈川) VS 豊里(茨城)	CC	U1 U2
	相手審判	CC:東條氏(指名) U1:若林 U2:小野里氏(群馬)		

ミーティング内容 主任 自己反省

- ・全体的に大きな現象もなく、スムーズにゲームが進んだ。
- ・ダブルヘッダーの2試合目ということもあり、影響の見極めが難しい面があった。結果的に負傷退場したケースも大きな接触が原因ではないが、少し足が引っかかったことで腰を痛めてしまった。
- ・全体的に笛数が少ないゲームだからこそ、コールしたものが色々な意味で目立つ。このレベルのゲームはディフェンスはギリギリまで守ってくるし、オフェンスは力強くリングへ向かってくる。レフェリーディフェンスを追求し続けることで、ラフにならず、且つダイナミックなプレーを引き出すことができる。

担当試合	期 日	8月9日	男子 女子	準決勝
	対戦カード	相模女子(神奈川) VS 昭和学院(千葉)	CC	U1 U2
	相手審判	CC:渡邊諭氏(栃木) U1:石鍋氏(東京) U2:若林		

ミーティング内容 主任 梶氏(栃木)

- ・早い時間帯で点差が開いたこともあり、スムーズにゲームが進んだ。
- ・女子中学生のゲームということで、体が弱いのですぐにプレイヤーが崩れる。崩れた原因がイリーガルな接触なのか、それともプレイヤーの弱さが原因なのかを追求していく必要がある。
- ・トスアップ直後のプレーはトレイル(トスアップしたCC)が判定に参加していくことが難しい。結果的にファーストプレー(ドライブ)はゲームの基準を示すうえでもコールしたいものだった。センターとリードが判定することが大切。
- ・(個人に対して)突発的に起きたプレーを突発的に判定している印象がある。なぜその接触が起きたのか、どちらにより大きな責任があるのか、をもっと把握することが必要。

全体の感想

まず初めに、開催県である栃木県バスケットボール協会の皆様、今大会へ派遣して下さった埼玉県バスケットボール協会、また日頃からご指導してくださっている方々へ感謝申し上げます。2泊派遣ということで、準々決勝(全中出場決定戦)と準決勝を担当させて頂きました。

今大会は今の自分の課題や取り組み方について、改めて見つめ直すきっかけになりました。端的に表現すると、今の吹き方では不十分だと思いました。「ゲームをスムーズに運営して、無事に終わらせたい」と思って常にコートに立っていますが、もっともっと自分自身に課題を設定して取り組む必要があると感じました。特に「コールしたもの」についての吟味がもっと必要だと感じました。このレベルだからこそ、オフェンスもディフェンスもギリギリまでプレーしてきます。そのプレーをギリギリまで見極める見方が必要だと思いました。指導者、プレイヤー、観客のために、より正しく、ダイナミックなプレーを引き出せるよう今後も精進していきます。

以上で派遣報告とさせて頂きます。ありがとうございました。

※本報告書の体裁は報告者自身にて自由に変更いただき問題ありません。分かりやすいよう図や写真を入れることも可能です。

県外派遣報告書

審判員名	山岸 大輔	所属	U18
大会名	令和5年度 第53回関東中学校バスケットボール大会		
期間	2023年8月7～9日		
会場	日環アリーナ栃木		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
8月3日	審判会議、レクチャー	オンライン	
8月7日	男女1回戦	日環アリーナ栃木	
8月8日	男女2回戦、準々決勝	日環アリーナ栃木	
会議 講義 内容			
<p>栃木県バスケットボール協会専務理事の鈴木さまより最初にご挨拶をいただきました。 地元栃木県審判委員長の梶さん、関東協会審判長の平原さんからは、ともに「全国へとつながる大会。どうぞよろしく願います」とありました。 レクチャーでは、「S級になるために取り組んできたこと」と題して、指名のお三方よりレクチャーをいただきました。 茂泉さんからは、「経験を積む」、「知識を深める」、「やってみると振り返り」の観点から、「誰かが変えてくれるのではなく自分から変える」ことの大切さをお話いただきました。 東條さんは「できる限り都合をつけ、コートに立つ機会を増やす、できる限り見に行く」取り組みを行ってきたとのことでした。 古畑さんはご自分がなされたマインドセット(自分の将来像を具体的に書いてみたりまわりに発信してみたりする)を中心にお話されました。 大変勉強になったとともに、自分についても改めて見つめ直してみたいと感じました。</p>			
実技			
担当試合	期 日	8月7日(月)	男子 1回戦
	対戦カード	宮の原(栃木) VS 石神井西(東京)	CC
	相手審判	U1:野田裕介氏(千葉) U2:櫻井紀豊氏(茨城)	
ミーティング内容		主任 大山賢史氏(栃木)	
U15ではよくある、最後まで吹き続けなければならないゲームだった。鳴ったり鳴らなかつたりして、ゲームコントロールを難しくしてしまった。CCとしてクルーをもっとリードできれば良かった。			

担当試合	期 日	8月8日(火)	女子	2回戦
	対戦カード	龍ヶ崎(茨城) VS 実践学園(東京)	CC	
	相手審判	U1:塚田和稀氏(栃木) U2:金田直弥氏(栃木)		
ミーティング内容		主任 渡邊 諭氏(栃木)		
<p>大事な場面でのゲームコントロールは良かった。第4Qに、クルーの目の前で起きたことに無理に行ってしまったが、余裕を持って見守ることも大切。ベンチから何かいわれても、それも対応できるように。終盤だったから良いが、序盤でそれをやってしまうとクルーが委縮してしまう。どうクルーを引っ張っていけばよいか、大変勉強になった。</p>				
担当試合	期 日	8月8日(火)	男子	準々決勝
	対戦カード	一条(栃木) VS 実践学園(東京)	U1	
	相手審判	CC:林原 潤氏(千葉) U2:星川 聖氏(群馬)		
ミーティング内容		主任 武藤 陽子氏(茨城)		
<p>もっと整理をしても良かった。ヘルプがあり鳴るべきものが鳴ってはいしたが、プライマリからは判定できなかったか。ゲームコントロールが必要な場面で出ていけたことは良かった。</p>				
全体の感想				
<p>昨年に引き続いて関東中学校に派遣をしていただきました。 U15特有の難しさを感じた3試合となりました。こちらが吹いても吹いてもなかなかファウルがやまず、吹き続けることの大切さを改めて感じました。また、カテゴリーが変わるごとにしっかりと対応できる引き出しを今後も増やしていければよいと感じました。 埼玉県バスケットボール協会の皆さまには派遣に指名していただき、改めて御礼申し上げます。また大会期間中は栃木県バスケットボール協会の皆さまに大変お世話になりました。この場をお借りして、御礼申し上げます。</p>				

※本報告書の体裁は報告者自身にて自由に変更いただき問題ありません。分かりやすいよう図や写真を入れることも可能です。